

事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社ペルセウスプロテオミクス

2025年6月

- 本資料は、当社が現在入手可能な情報をもとに作成されております。将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述であり、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があることにご注意ください。
- 本資料は、投資家の皆様の当社への理解を深めていただく目的で作成・開示したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。
- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」は 2026年5月に開示する予定です。

会社概要

企業理念

最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する

事業内容

- 創薬（抗体医薬品の開発）
- 抗体研究支援
- 抗体・試薬販売

社名

株式会社ペルセウスプロテオミクス

設立

2001年2月

拠点

本社：東京都中央区日本橋箱崎町30番1号

ラボ：愛知県名古屋市千種区千種二丁目22番8号

資本金

2,437百万円*

従業員

32名（臨時従業員は含まず）*

取締役



横川 拓哉（代表取締役）

富士フイルム 医薬品研究所長（創薬研究）
同社医薬品事業部次長（臨床開発・事業開発）



小南 欽一郎（テック&フィンストラテジー代表）※

英国王立がん研究所
野村證券、みずほ証券



鈴川 信一（管理部長）

KDDI グローバルICT本部長
テレハウスヨーロッパ社長



花井 陳雄（島津製作所 社外取締役）※

協和キリン（代表取締役社長、会長）
BioWa, Inc. 社長



萩原 真二（研究開発部長）

GSK 生物科学研究部
富士フイルム医薬品・ヘルスケア研究所統括マネージャー

取締役（監査等委員）



長清 達矢（ジャパニクス株式会社 社外監査役）

KDDI リスクマネジメント本部 内部統制部長



大野 貴史※

大野公認会計士事務所 代表



堀内 正（慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター訪問教授）※

第一三共 創薬開拓研究所長
アスピオファーマ常勤監査役

技術顧問



石川 冬木

京都大学 副学長
日本学術会議 連携会員



津本 浩平

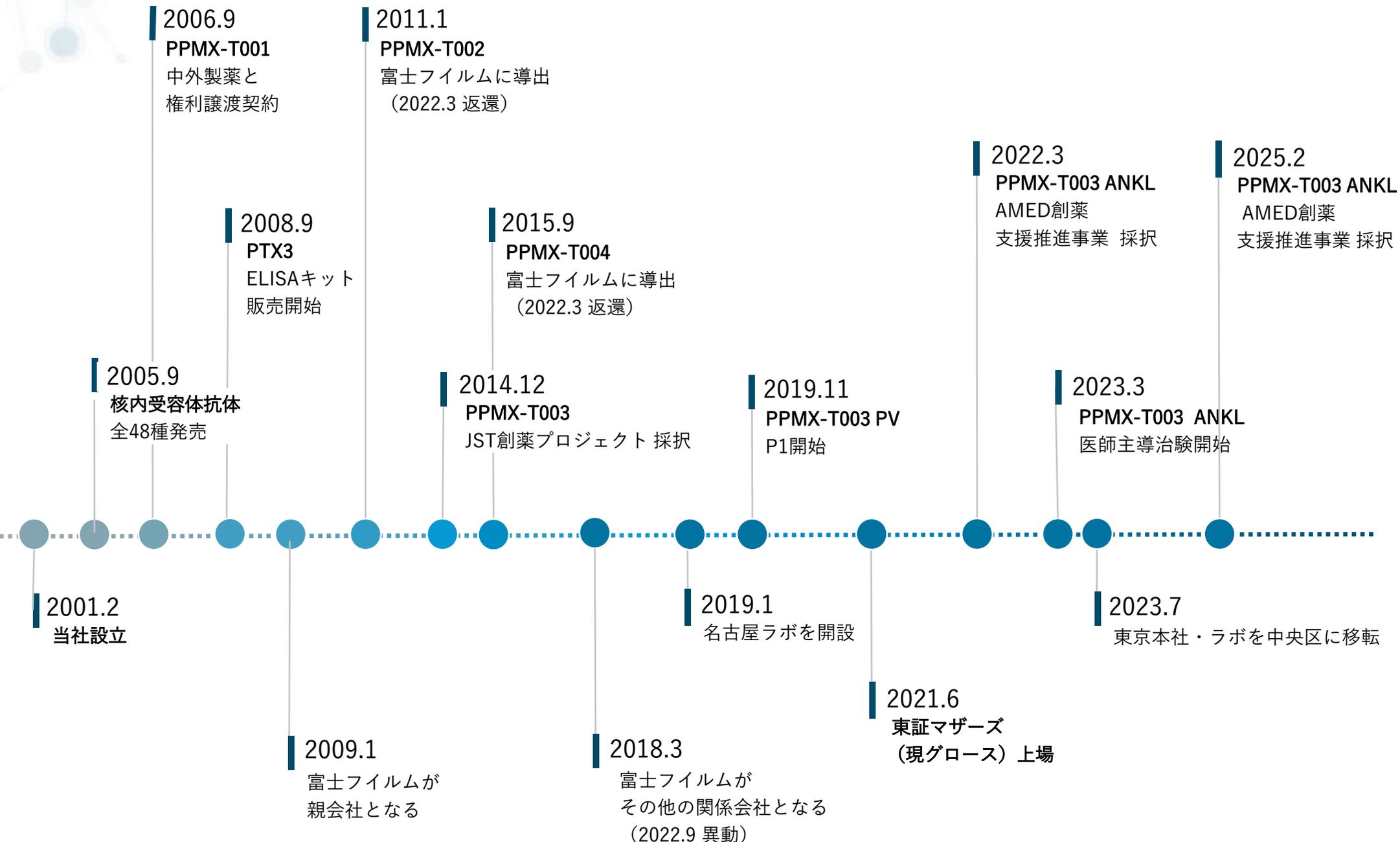
東京大学 大学院工学系研究科教授
医薬基盤・健康・栄養研究所,
創薬デザイン研究センター長



熊谷 雄二

北里大学 名誉教授

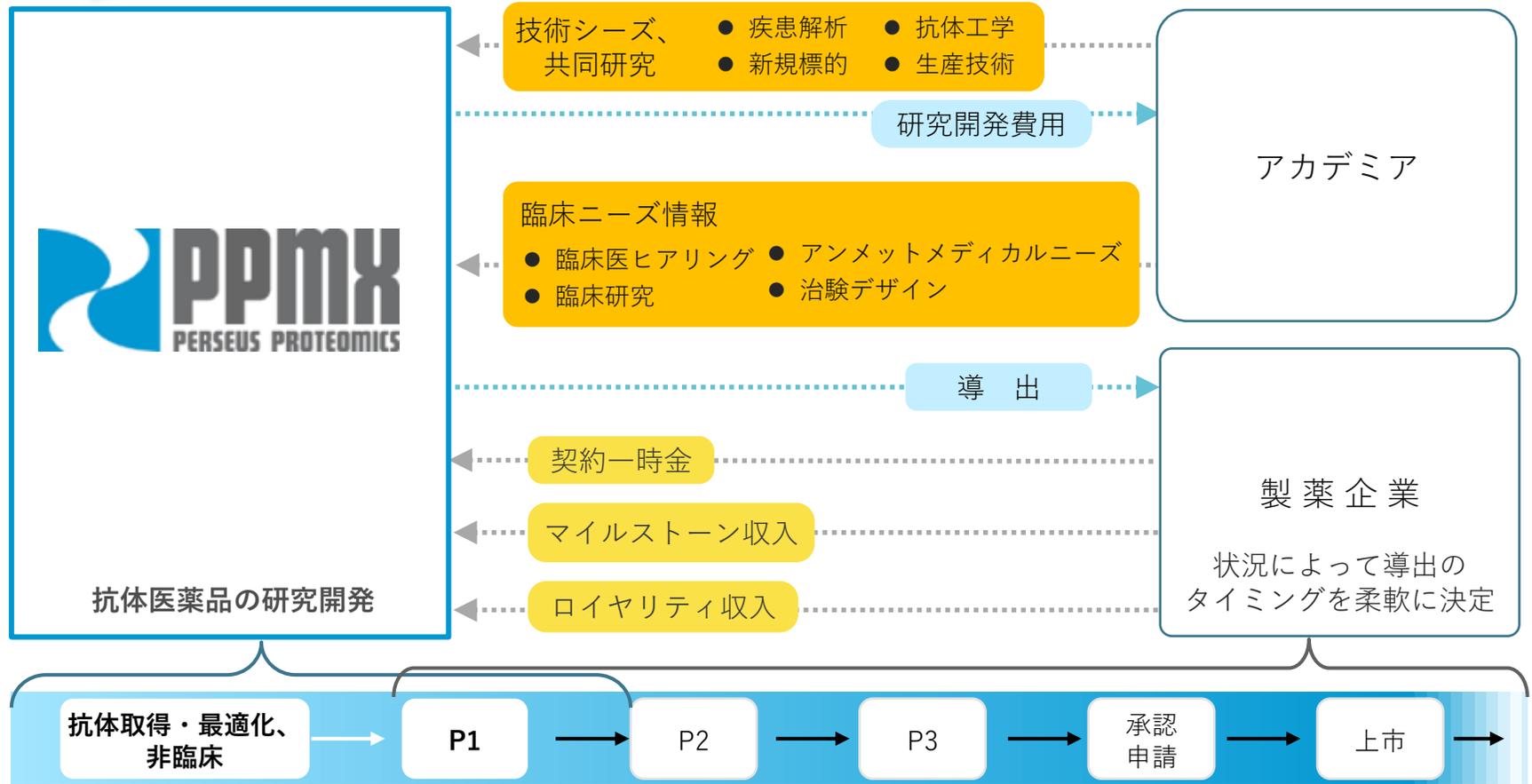
※ 非常勤



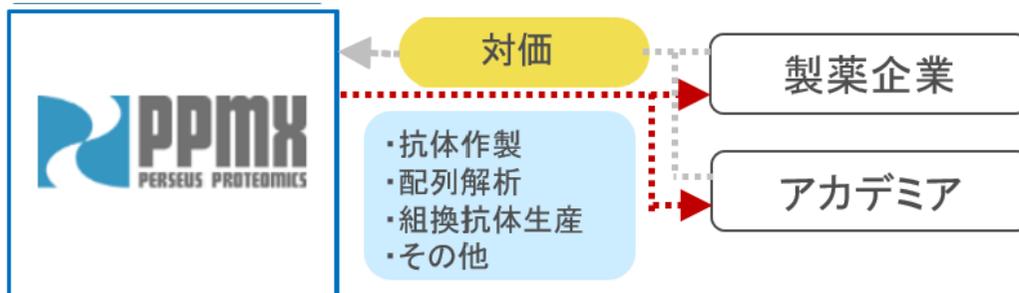
ビジネスモデル

当社の事業と収益構造

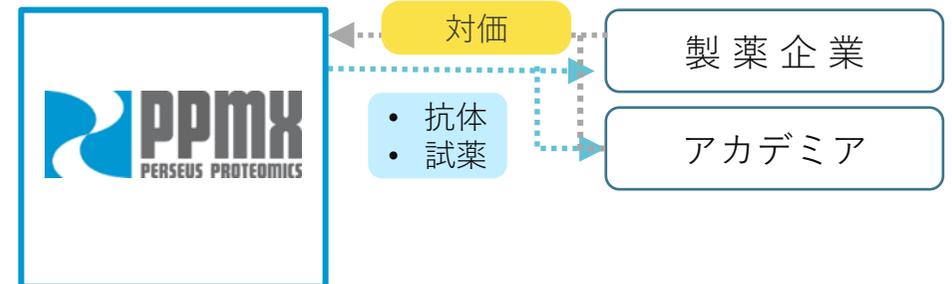
1. 創薬



2. 抗体研究支援



3. 抗体・試薬販売



パイプラインの状況

当社コード	対象疾患	研究開発		治験			承認	詳細
		創薬研究	非臨床試験	Phase1	Phase2	Phase3		
PPMX-T003	PV ¹⁾	[Blue arrow from start to Phase 1]						<ul style="list-style-type: none"> Phase1は2024年6月に終了
	ANKL ²⁾	[Blue arrow from start to Phase 1]						<ul style="list-style-type: none"> AMEDプログラムに採択 医師主導治験実施中
PPMX-T002	固形がん (卵巣がん等)	[Grey arrow for RI antibody (Y) from start to Phase 2]						<ul style="list-style-type: none"> 放射性同位体標識抗体(RI抗体) がん集積性は臨床で実証済み 当社主導で開発 (PDRファーマと合意) RIを最新のAcに変更
		[Blue arrow for RI antibody (Ac) from start to Phase 1]						
PPMX-T004	固形がん (卵巣がん等)	[Grey arrow for ADC from start to Phase 1]						<ul style="list-style-type: none"> 抗体薬物複合体 (ADC) 予備毒性試験を実施中

※ FY2025/3を目標に導出活動していましたが、契約締結に至らず、引き続き導出活動中です。

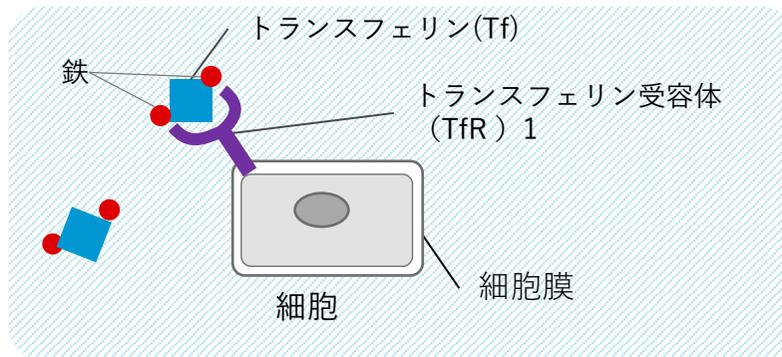
PPMX-T003

トランスフェリン受容体を標的とするファーストインクラスがん治療薬候補

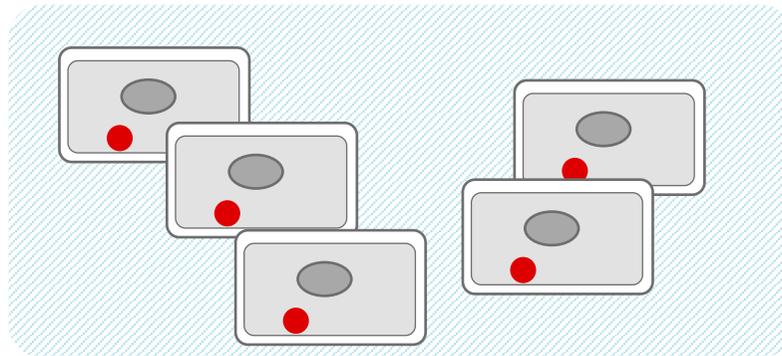
トランスフェリン受容体 (TfR) 1とは

- がん治療薬の有力な標的分子
- 細胞膜上に発現し、鉄を抱えたトランスフェリン(Tf)と結合して細胞内に鉄を取り込む

1 TfRとTfが結合



2 細胞が増殖



【 TfR 1が高発現する細胞 】

- 赤芽球[※] (正常細胞、赤血球産生細胞)
- がん細胞(特に増殖が盛んな急性がん)

公知の概念

鉄の遮断
⇒ **細胞死・増殖抑制**

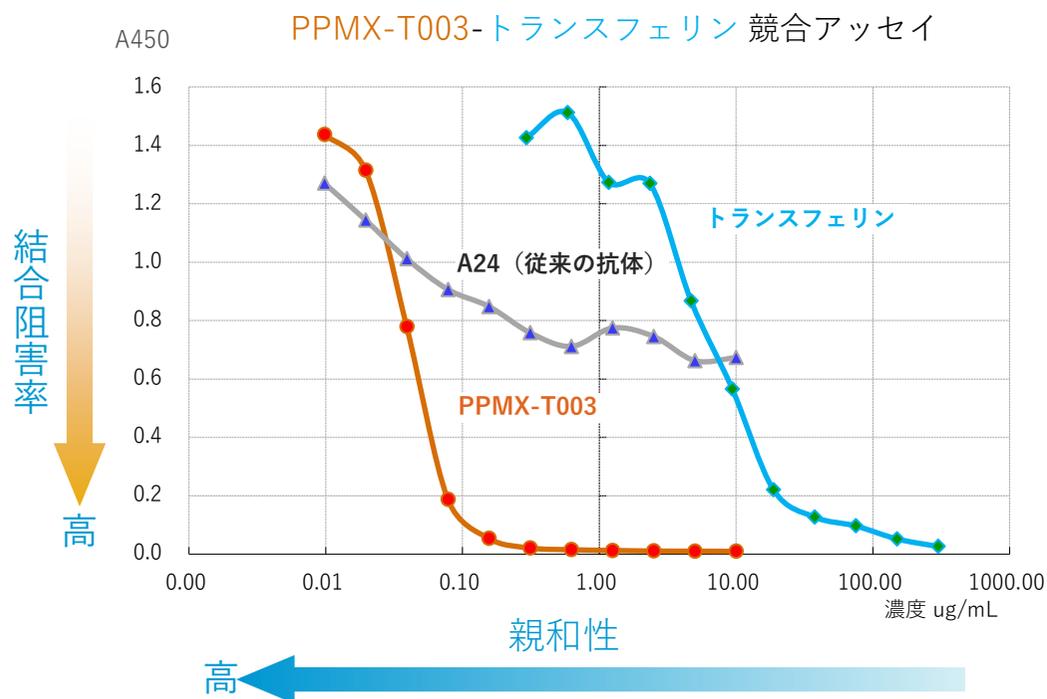
細胞内への鉄の取り込みを阻害すればがん細胞は細胞死・増殖抑制

PPMX-T003

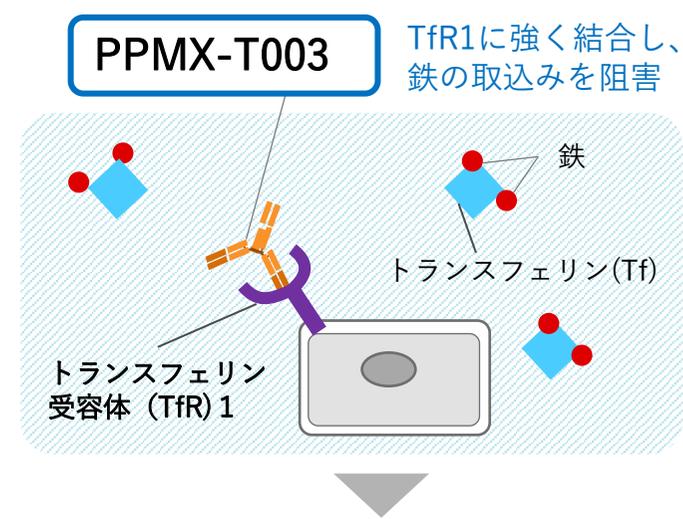
当社ファージディスプレイ技術によって得られた高機能性抗体

TfとTfR1の結合阻害率で過去最高の数値を提示

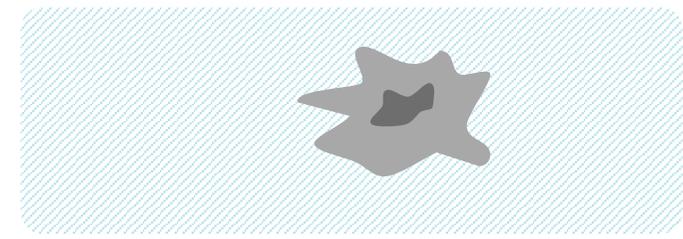
がん細胞と赤芽球への鉄の取込みを阻害し、細胞死・増殖抑制へ



1 PPMX-T003はTfよりも強くTfR1と結合



2 鉄の取込みが阻害され、細胞死・細胞の増殖抑制



- これまで困難だった鉄の取込み阻害を初めて実現
- がんや真性多血症の治療薬として期待される

類例ない阻害作用を示す抗トランスフェリン1受容体抗体

対象疾患：真性多血症（PV）について

- 血液中の赤血球が異常に増える病気
- 血液が濃くなり、流れが悪くなるため血栓ができやすく、様々な臓器で血栓が問題となる
- 発症率：10万人あたり2人が発症。 国内患者数約3万人（当社推定。平均余命16年）

現在の治療法

しゃ血治療

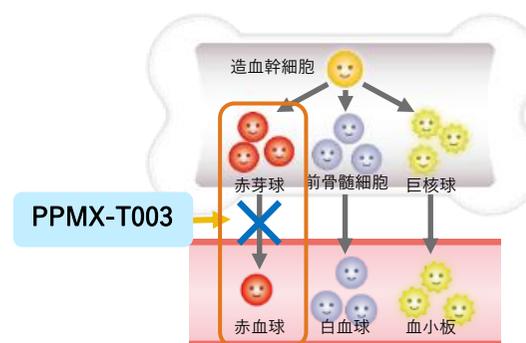
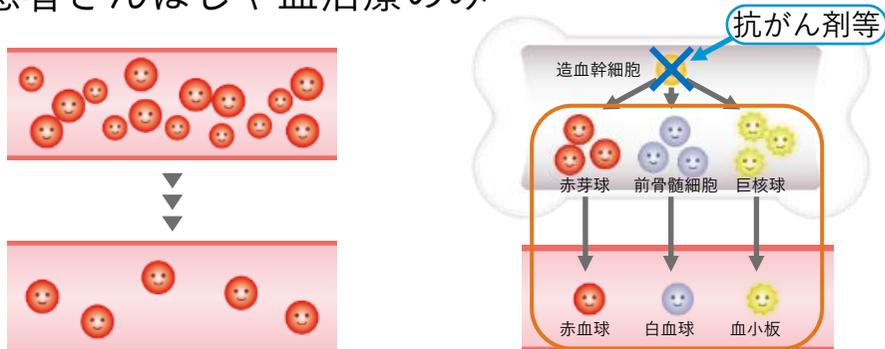
抗がん剤等

新たな候補

当社

PPMX-T003

約半分の患者さんはしゃ血治療のみ



- 貧血
- 脱力感
- うつ病
- 手足むずむず病
- 鉄欠乏症によるその他疾患

- 造血幹細胞全体に影響
- 二次がんの発症リスク
- 副作用が多い

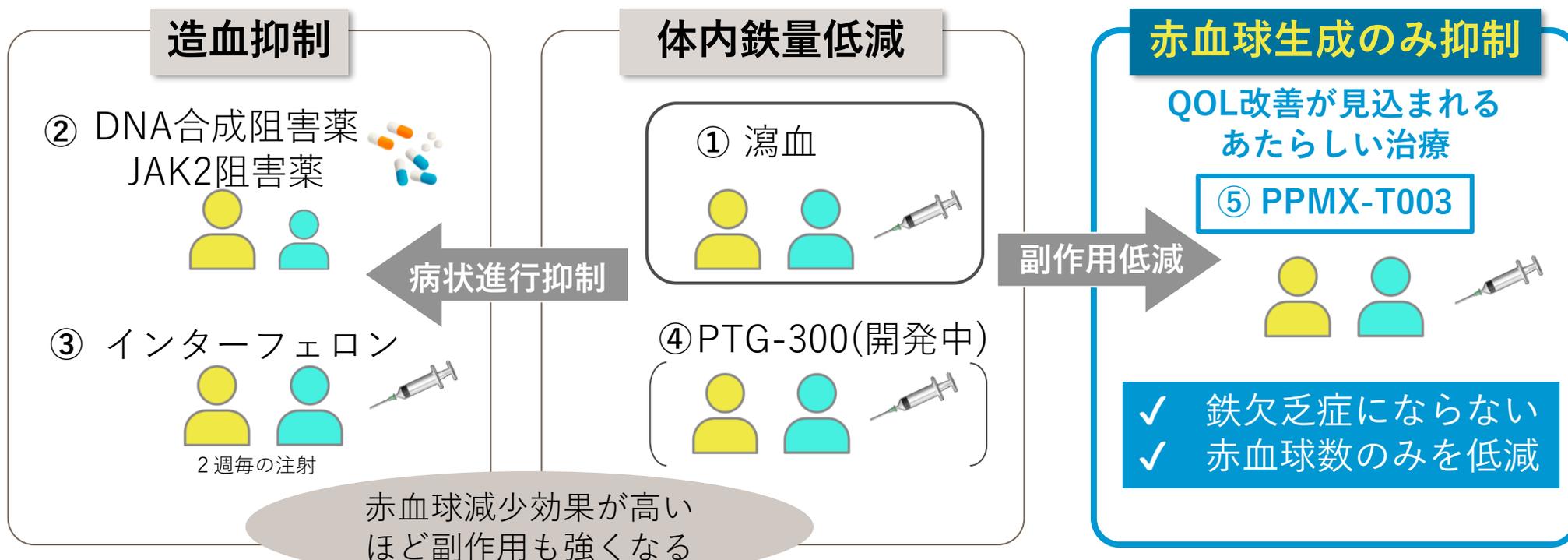
- 赤芽球にのみ作用
- 副作用が少ない
- 安全性が高い

PPMX-T003は赤血球の異常増殖抑制に効果が期待できる

自社開発抗体PPMX-T003：市場性 PV競合薬に対するポジション・優位性

PVの特徴：赤血球増加⇒血液粘性上昇⇒血栓症

60歳以上or血栓既往有 (一定の副作用は許容) 60歳未満、血栓既往無
 ハイリスク ローリスク



PPMX-T003：真性多血症（PV） 第I相試験が終了、導出活動中



導出活動中

できる限り早期の導出を目指す

● 治験情報

[臨床研究実施計画・研究概要公開システムjRCT](https://jrct.mhlw.go.jp/latest-detail/jRCT2051210083)

jRCT2051210083: <https://jrct.mhlw.go.jp/latest-detail/jRCT2051210083>

PPMX-T003：真性多血症（PV）

第66回ASH（米国血液学会）を含む国内外の学会で発表

FY2025/3のPPMX-T003学会発表

日本	2024年7月13～14日	第14回JSH International Symposium 2024
米国	2024年12月7～10日	第66回ASH年次総会 世界最大の血液学会



< PV患者さんの第I相試験結果を報告 >

- 6例中5例で12週間の瀉血不要期間を達成
- 6例全てで重篤な副作用なし

PPMX-T003

対象疾患：アグレッシブNK細胞白血病（ANKL）について

- 予後不良

50%生存期間 = 58日（約2か月）

- 超希少疾患

2020年 国内発症13例

東アジア、中南米で発症例が多い

診断が困難なため、医療技術の発達とともに症例増加の可能性も

- AYA世代（15~39歳）、40代に多い

- 有効な治療薬が存在しない

劇症型で予後不良。発症原因の解明や治療法の確立が待たれる

PPMX-T003：アグレッシブNK細胞白血病（ANKL）

医師主導治験実施中



2026年3月まで延長※



2023年3月
AMEDの創薬事業に採択
事業期間3年間で
助成金 2.5億円

2025年2月
AMEDの創薬事業に**再び**採択
FY2026/3助成金 1億円
(事業期間は3年間)



・世界初のANKL治療薬として
製造販売承認申請へ
・オーファン申請

治験実施施設を増設 7カ所⇒9カ所

● 治験情報

[臨床研究実施計画・研究概要公開システムjRCT](https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCT2061230008)

jRCT2061230008: <https://jrct.niph.go.jp/latest-detail/jRCT2061230008>

※2025年3月の治験終了予定でしたが、症例登録の遅延により、2026年3月まで延長となった。

超稀少疾患の治療薬開発の困難を克服、治療薬承認でT003開発計画に好影響

超稀少疾患治療薬 開発のハードル

コストが高い

リクルートが困難

開発期間が長い

成功のための施策

T003の治験薬を転用（CMC費用なし）

AMEDからの助成金2.5億円を獲得

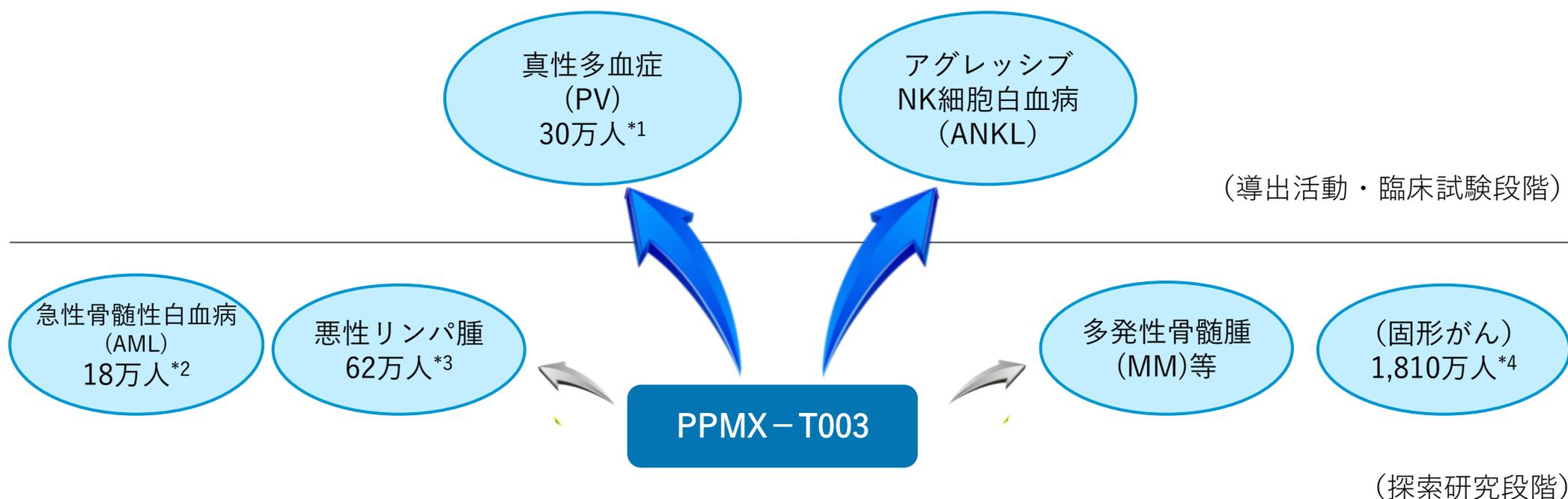
全国の拠点病院網で医師主導治験の体制を整備

オーファン指定申請、自社で承認取得も（高い薬価）

ANKL治療薬承認でPPMX-T003全体の開発計画を促進

PPMX-T003

対象疾患：真性多血症やANKLほか各種血液がんへの適応



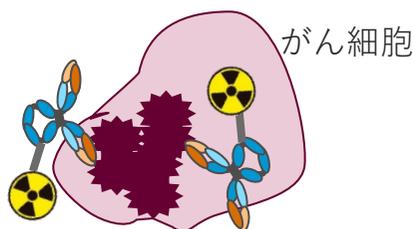
AML、悪性リンパ腫等の治療薬として適応拡大が期待

出典： *1 グローバルインフォメーション「真性多血症 - 市場考察、疫学、市場予測（2032年）」主要7市場の合計（日・米・欧州5か国）
*2 WHO, “Blood Reviews” Volume 36, Epidemiology of acute myeloid leukemia: Recent progress and enduring challenges”を基に当社で推定
*3 WHO *4: World Cancer Research Fund International (2020)

PPMX-T002 (放射性同位体標識抗体)

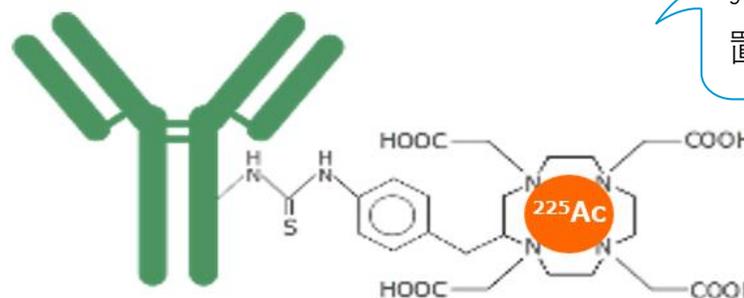
抗体はそのまま活用し、より効果が高い²²⁵Acに変更

1 RI標識抗体の働き



- ・がん細胞上のCDH3にT002抗体が集積し、RIががん細胞を殺傷

2 PPMX-T002の構造



90Y(β線) ⇒ ²²⁵Ac(α線)に置き換えて治療効果を向上

がんへの集積を確認済
(米国でのP2治験実績)

3 2025年3月期の活動内容と今後の計画

2025年3月期

2026年3月期以降

導出活動中

早期の導出を目指す

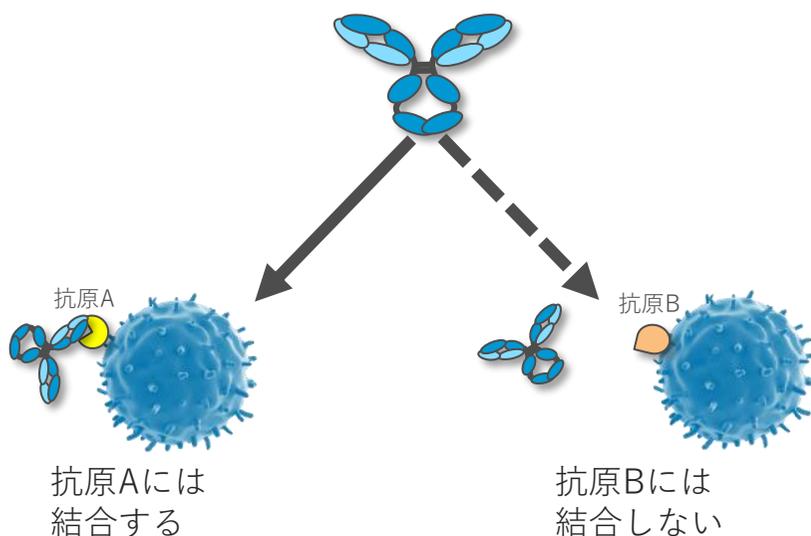
市場環境

抗体：自然界で生命を守っている

抗体医薬品：副作用の少ない医薬品として高いニーズがある

抗体

体の中で異物を排除するたんぱく質



特定の抗原のみに結合する

抗体医薬品

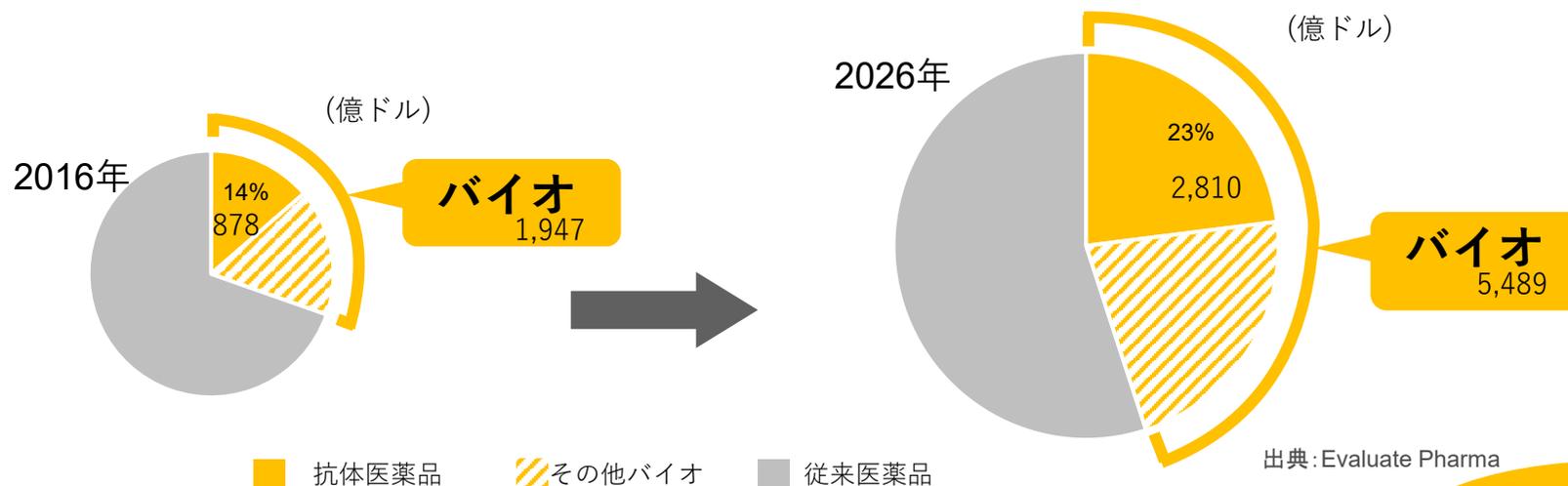
疾患関連分子に特異的に結合する抗体を遺伝子組換え技術等を応用して作製した医薬品

抗体医薬品のはたらき

- シグナルの伝達を遮断し増殖等を阻害
- 生理機能を活性化
- 免疫細胞を活性化し細胞傷害性を誘起
- 標的を発現する細胞への薬剤の送達

抗体医薬品市場

● 世界の抗体医薬品市場



**抗体医薬品は
5品目を占める**

● 2024年度世界の医薬品売上高トップ10 (新型コロナワクチンは含まない)

順位	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患/形態
1	キイトルーダ	29,482	がん/抗体
2	エリキュース	20,699	抗凝固/低分子
3	オゼンピック	17,450	2型糖尿病/ペプチド
4	デュピクセント	14,144	アトピー性皮膚炎/抗体
5	ビクタルビ	13,423	HIV/低分子

順位	名称	売上高 (百万ドル)	適応疾患/形態
6	ジャディアンス	12,383	2型糖尿病/低分子
7	スキリージ	11,718	乾癬/抗体
8	ダラザレックス/ ダラキューロ	11,670	多発性骨髄腫/抗体
9	マンジャロ	11,540	2型糖尿病/ペプチド
10	ステラーラ	10,754	乾癬/抗体

出所:「日経バイオテクONLINE」2025年5月19日掲載の情報をもとに自社で一部抜粋して作成
<https://pharma.all.nikkeibp.co.jp/atcl/report/16/082400016/051500392/?ST=pb>

競争力の源泉

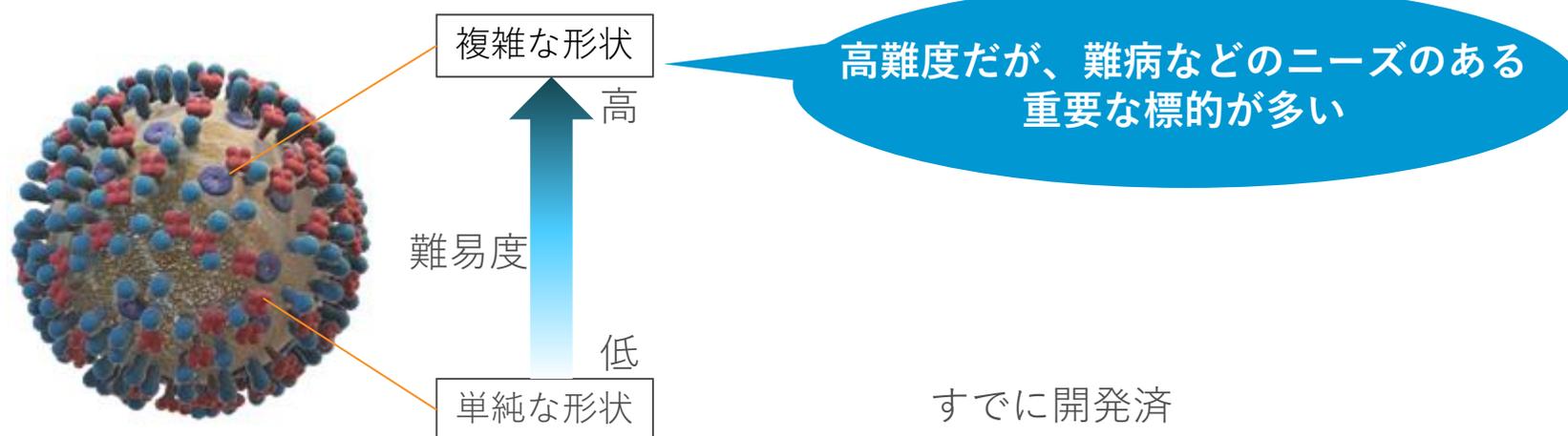
今求められる抗体作製技術

抗原と抗体の反応は「鍵穴」と「鍵」に例えられる。

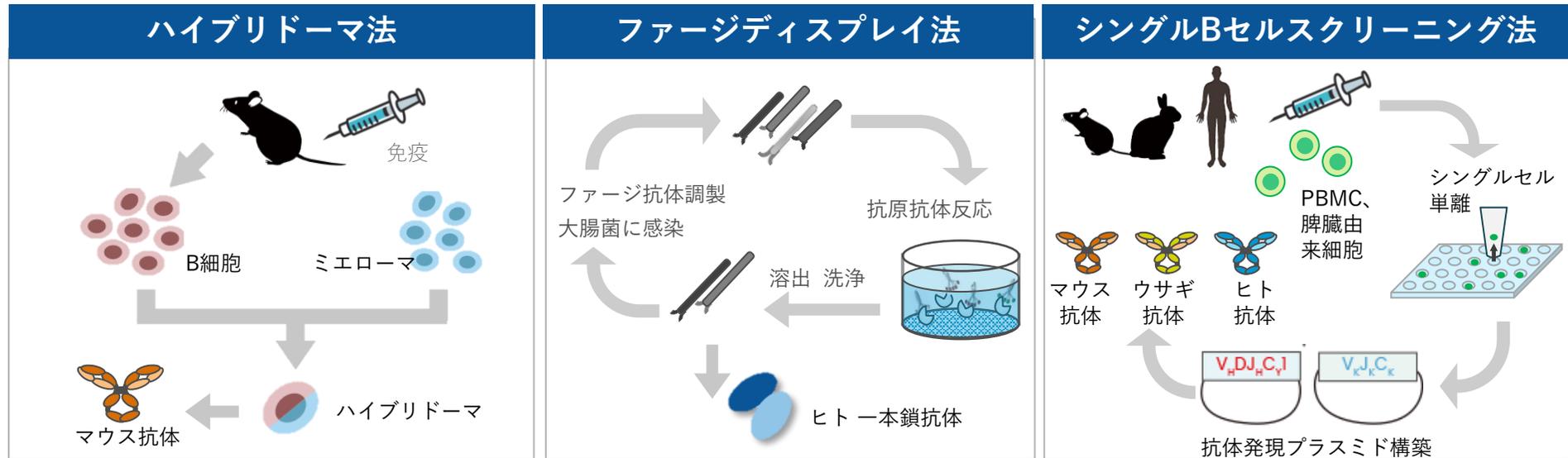


鍵穴（蛋白質）の複雑さに応じて鍵（抗体）の作製難易度が変化する。

抗体医薬品の標的：細胞表面蛋白質を狙うことが多い。



複雑な形状の標的に対する効率的な抗体取得技術が必要



特徴

- 手法が成熟
- 生体内で親和性が向上
- 低コスト
- 複雑な抗原に対する抗体は取得困難
⇒ADC¹⁾、RIT²⁾、新規標的に活用

- ヒト抗体を取得
- 動物が不要
- 生物毒性を考慮しなくてよい
- ライブラリ作製に熟練が必要
⇒多様性を最大化できる技術力

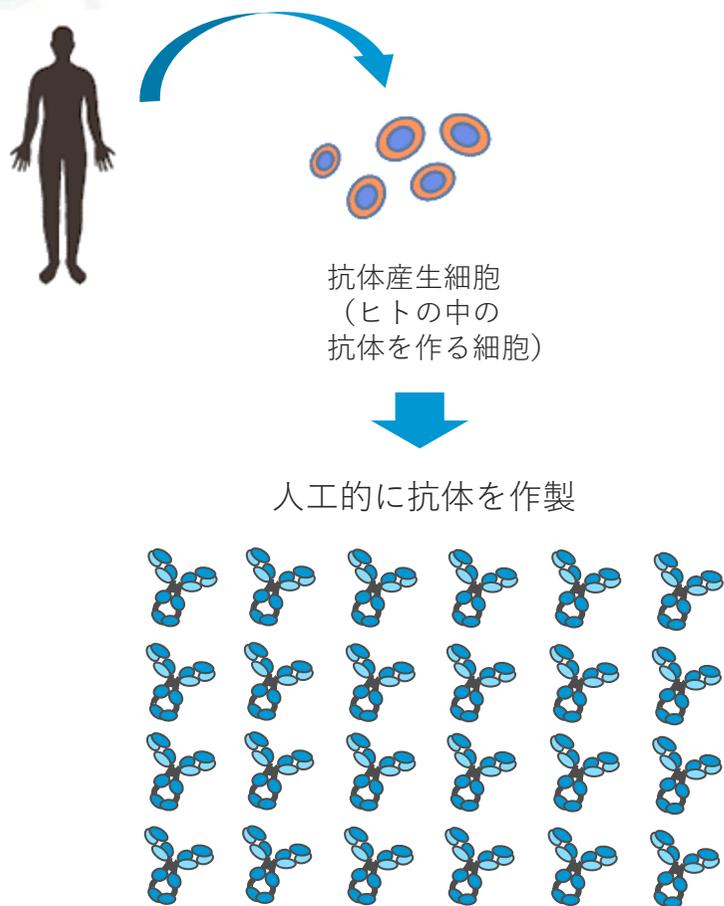
- ヒトや動物の抗体をスピーディに取得
- B細胞の多様性を維持
- 機械は高額
- 工程全体の操作に熟練が必要
⇒新たな手法として活用

さまざまな手法を駆使して最適な方法で抗体を取得

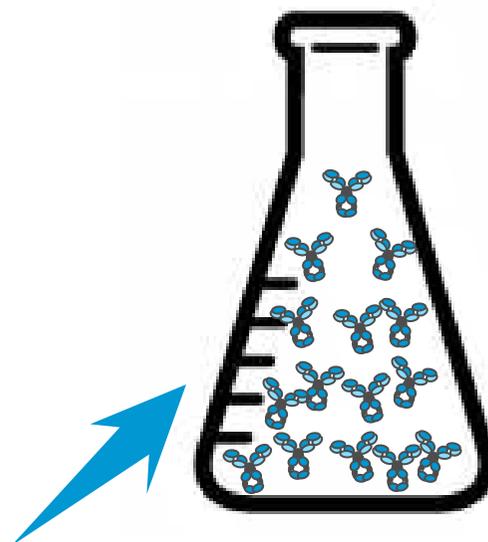
1) ADC：抗体薬物複合体 2) RIT：放射免疫療法

実用的なファージ抗体ライブラリ

ヒトファージ抗体ライブラリを使ってできること



ヒトファージ抗体ライブラリ
1,000億種類の抗体集団



ヒトファージ抗体ライブラリ



特定の条件に合致した集団を
すくい上げる。



任意の相手に結合する抗体を
釣り上げる。



特殊な相手に結合する抗体を
見つけ出す。

当社のヒトファージ抗体ライブラリの特徴

- 多くの抗体の中から目的の抗体を選び出せる。
- すべてヒト由来の抗体なので安心。
- H鎖重視のライブラリ構成で親和性の高い抗体を取得できる。

多くの抗体を含んだライブラリから効率的に抗体を取得

ファージディスプレイ法の抗体スクリーニング技術 ICOS法（当社独自の方法）

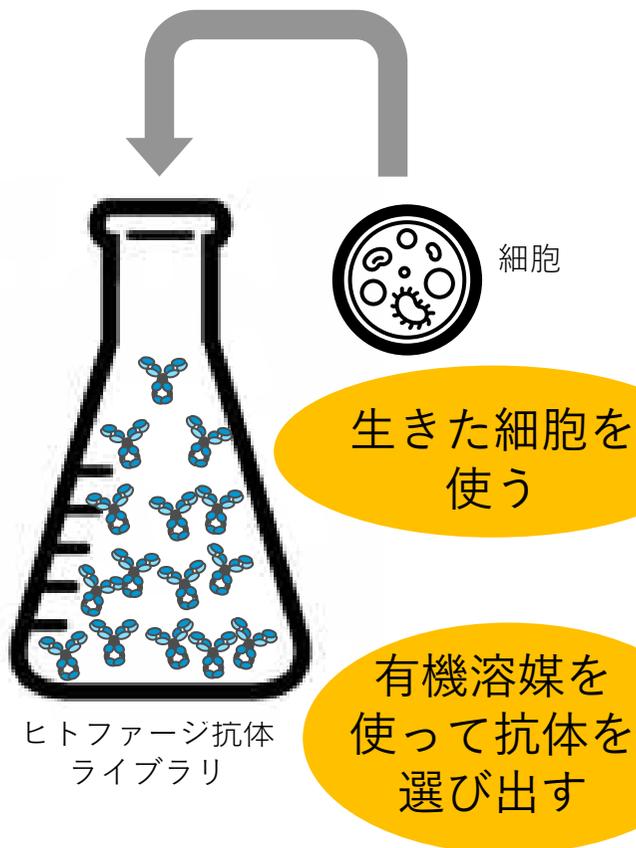
課題

従来のスクリーニング方法では細胞に対して非特異的に反応する抗体が残ってしまう

解決法

ICOS法：当社独自の抗体スクリーニング技術

有機溶媒を用いる独自の方法で、生きた細胞を使いつつ非特異抗体を除去する

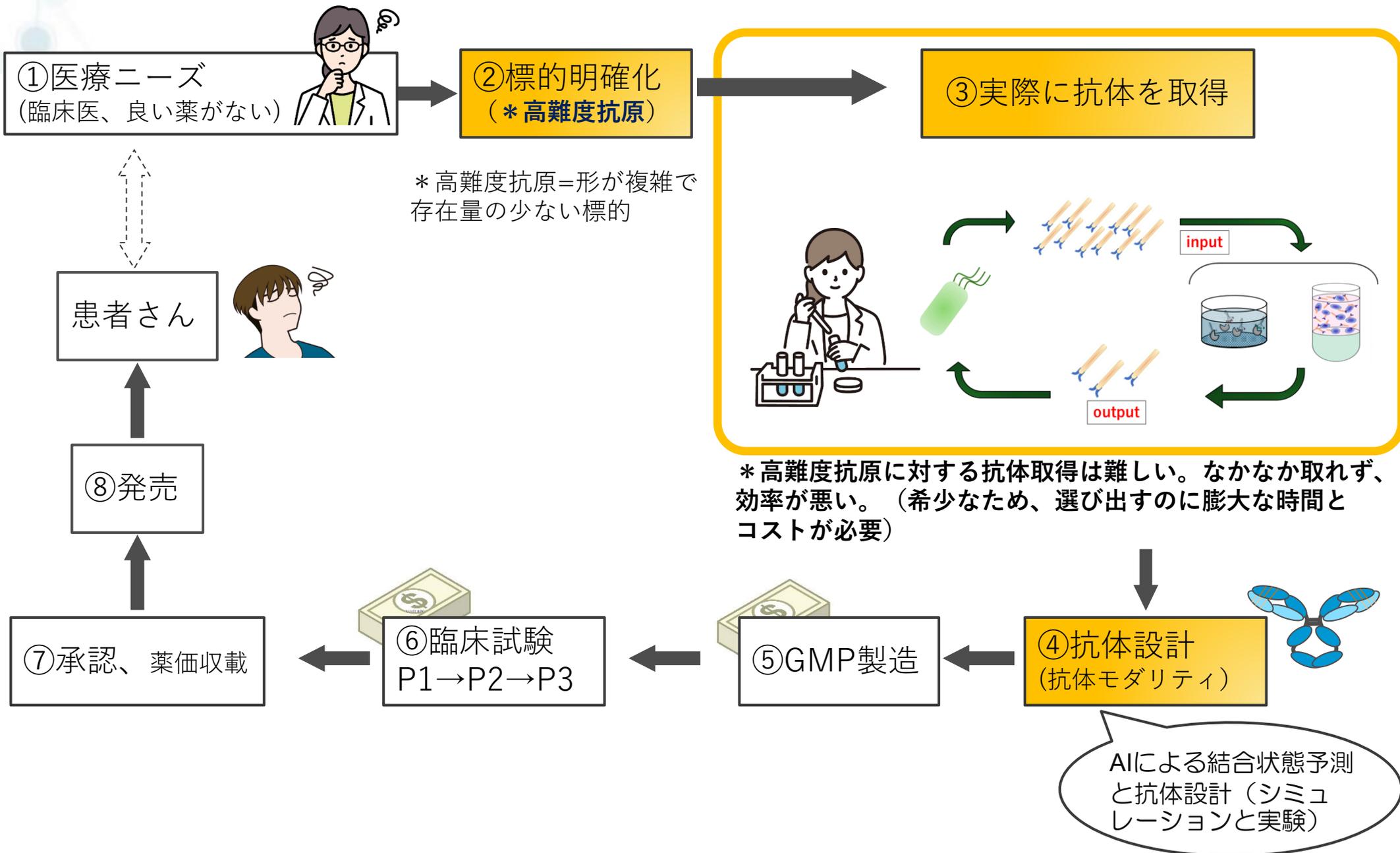


特徴

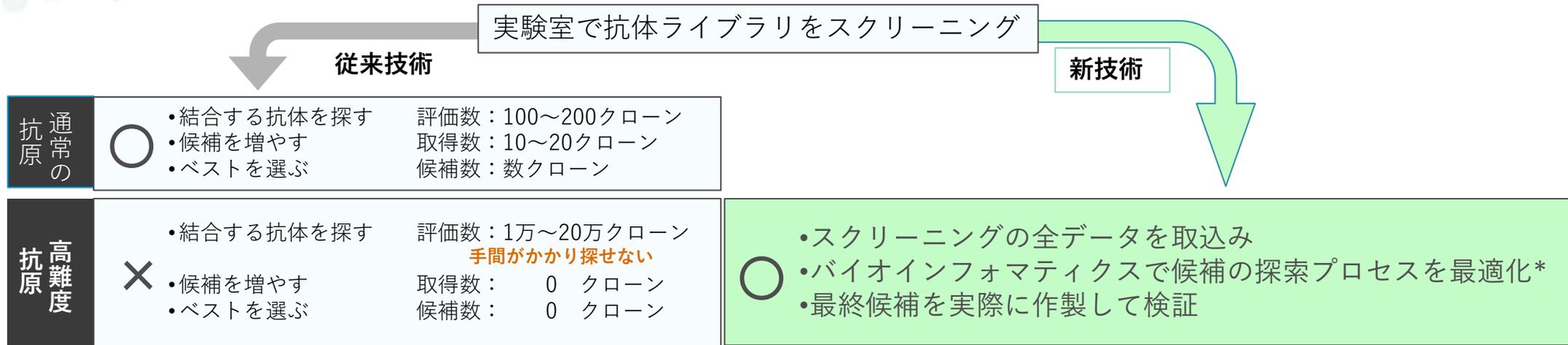
- 生きた細胞を使うことで複雑な形状の蛋白質にも対応。
- 特殊な条件（有機溶媒）で抗体を選び出すことが可能。この条件で選ばれた抗体は優れた反応性をもつ。
- 様々な細胞で抗体取得の実証済み。

正しい立体構造を標的にすることで機能阻害抗体を効率的に単離

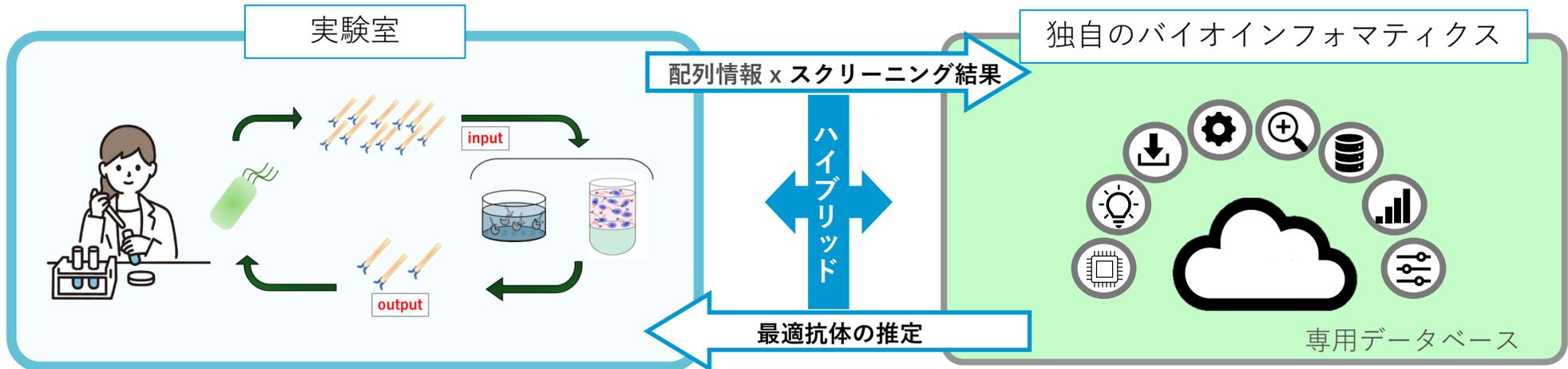
抗体創薬プロセス（ファージディスプレイ法の場合）



今後の標的は難病などの高難度抗原。 いかに早く抗体を見つけるかが勝負

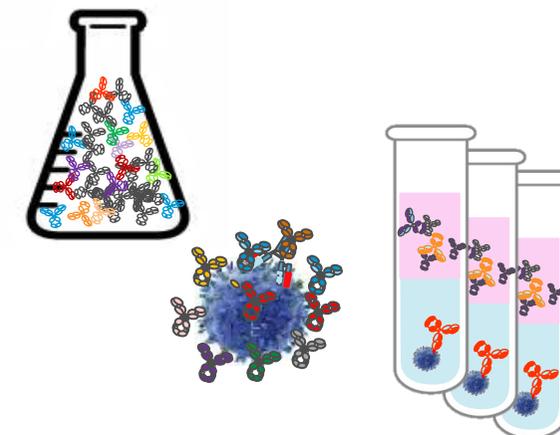


* FY2025/3 出願済



高難度抗原：リアルな実験とバイオインフォマティクスとのハイブリッドで対応

- 1 多様性の高い独自のライブラリ2 (ID化)
- 2 ICOS法により非特異的に吸着する不純物を除去
(化学的にノイズを除去)
- 3 1 を活用して全ての実験結果の抗体配列を解析
(デジタル的にノイズを除去)
- 4 PPMX独自のデータベースに蓄積
- 5 独自のAIにより、求める抗体候補の配列を推定





PPMX抗体ライブラリ2 (新)

- New** 他社の100倍の多様性 ▶ PPMX抗体ライブラリ1と同じコンセプトで深化
- ライブラリのID化 ▶ 簡便に抗体の全配列情報を解析
- New** スクリーニング手法のハイブリッド化 ▶ スクリーニングの効率化
希少クローンの可視化

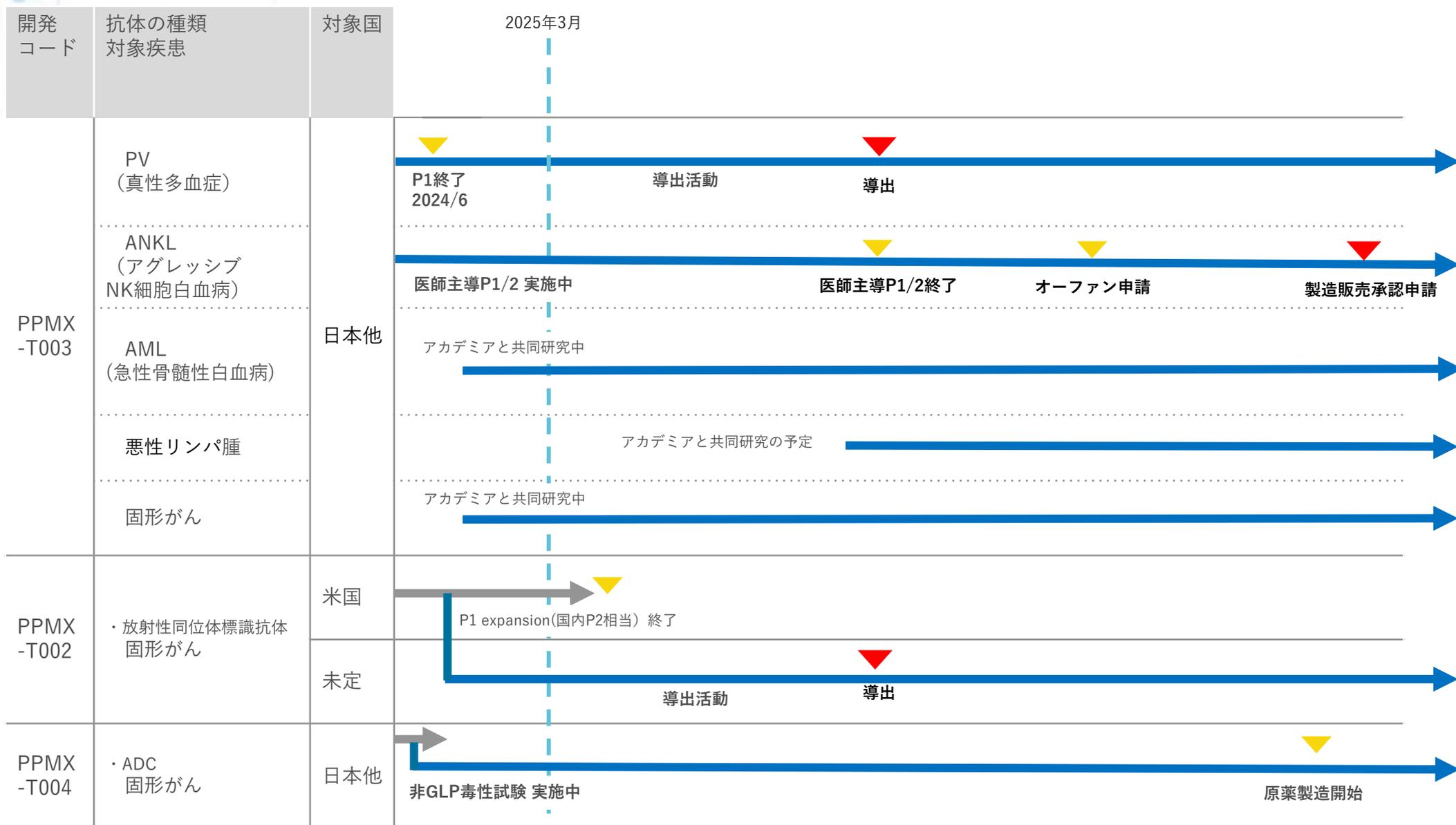
抗体ライブラリの進化で活用範囲を拡張 将来的なAI抗体創薬への布石

	特許権の名称	出願番号	登録年月日 登録番号	存続期間 満了日	内容・特徴
PPMX-T002	放射性金属標識抗カドヘリン抗体	特願2011-553868 PCT/JP2011/052759	2013年10月4日 JP5380553	2031年2月9日	癌細胞特異的に高集積する放射性金属標識抗カドヘリン抗体、さらにこれを含む癌治療薬及び癌診断薬に関するもの
	緩衝剤を含む組成物	特願2018-534445	2022年7月12日 JP7104274	2037年8月21日	放射性金属標識キレート化ターゲティング剤の調製に使用される技術に関するもの
PPMX-T003	トランスフェリン受容体抗体	特願2012-066535	2016年5月27日 JP5939855	2032年3月23日	抗TfR抗体を含む医薬組成物、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2013-514005 PCT/JP2012/061676	2016年8月5日 JP5980202	2032年5月7日	
	トランスフェリン受容体を特異的に認識できる抗体	特願2014-545766 PCT/JP2013/080249	2017年9月22日 JP6212497	2033年11月8日	
	細胞内への鉄の取り込み阻害剤	特願2018-217548 PCT/JP2019/045227	2023年12月25日 JP7410051	2039年11月19日	
	多血症治療薬	特願2019-161344 PCT/JP2020/033561	2024年10月3日 JP7560815	2040年9月4日	
	癌性腹膜炎の治療薬	特願2020-083801	2025年1月20日 JP7622926	2040年11月27日	抗TfR抗体を用いた癌性腹膜炎の新規治療薬に関するもの
PPMX-T004	高い内在化能力を有する抗CDH3抗体	特願2012-540965 PCT/JP2011/074958	2016年9月16日 JP6006640	2031年10月28日	薬物を修飾した抗CDH3抗体、特に悪性腫瘍の治療に関わる医薬組成物に関するもの
	抗CDH3(P-カドヘリン)抗体の薬剤コンジュゲート	特願2014-508962 PCT/JP2012/059236	2017年3月24日 JP6113717	2032年4月4日	
	抗CDH3ヒト化抗体、その薬剤コンジュゲート、及びそれらの使用	特願2015-500306 PCT/JP2014/053473	2018年8月3日 JP6377601	2034年2月14日	

- PPMX-T002：上記の他に1件特許出願中（うち、未公開特許1件）
- PPMX-T003：上記の他に7件特許出願中（うち、未公開特許4件）
- PPMX-T004：上記の他に2件特許出願中（うち、未公開特許2件）
- 基盤技術：上記の他に4件特許出願中（うち、未公開特許4件）

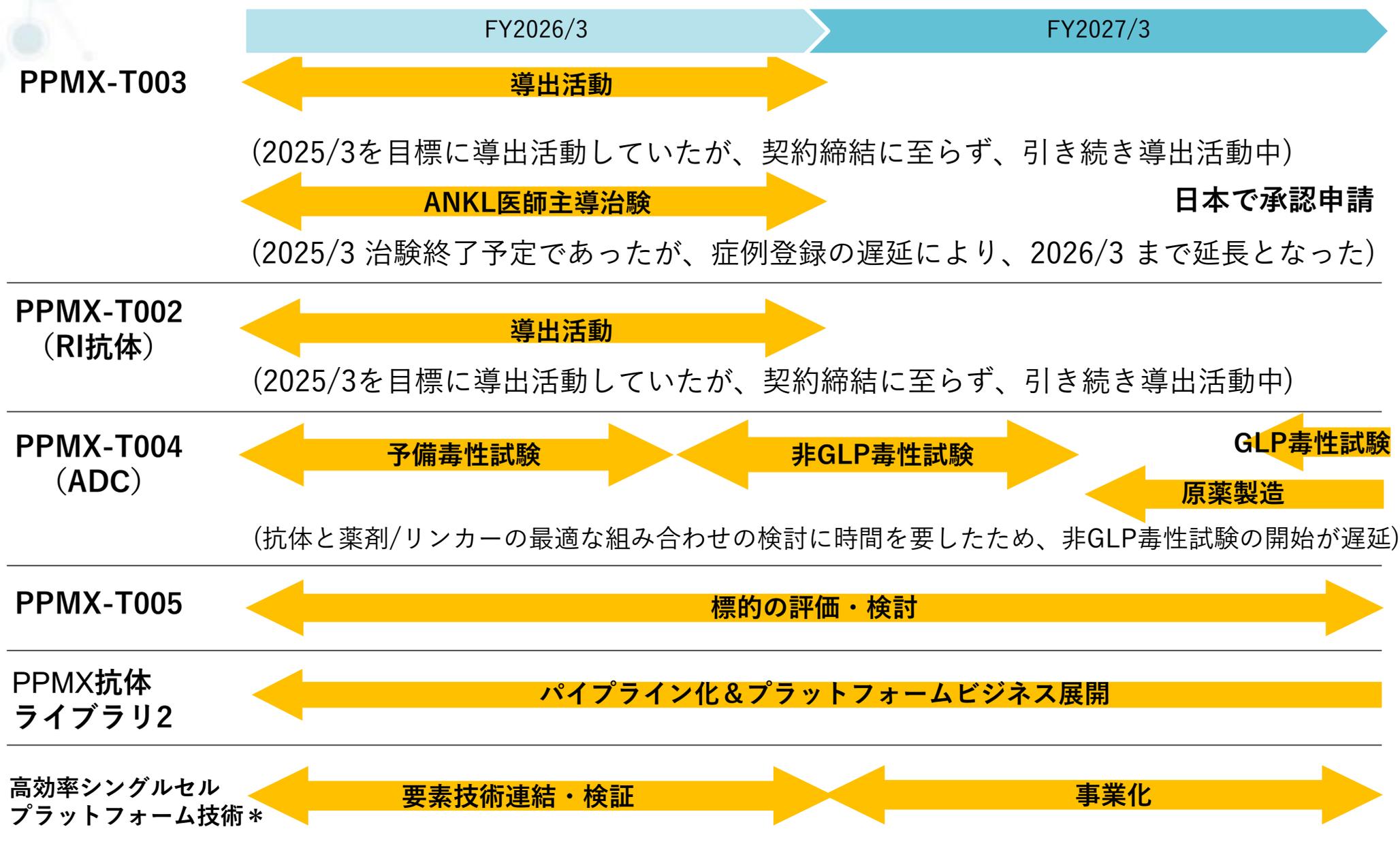
事業計画

(1) 成長戦略



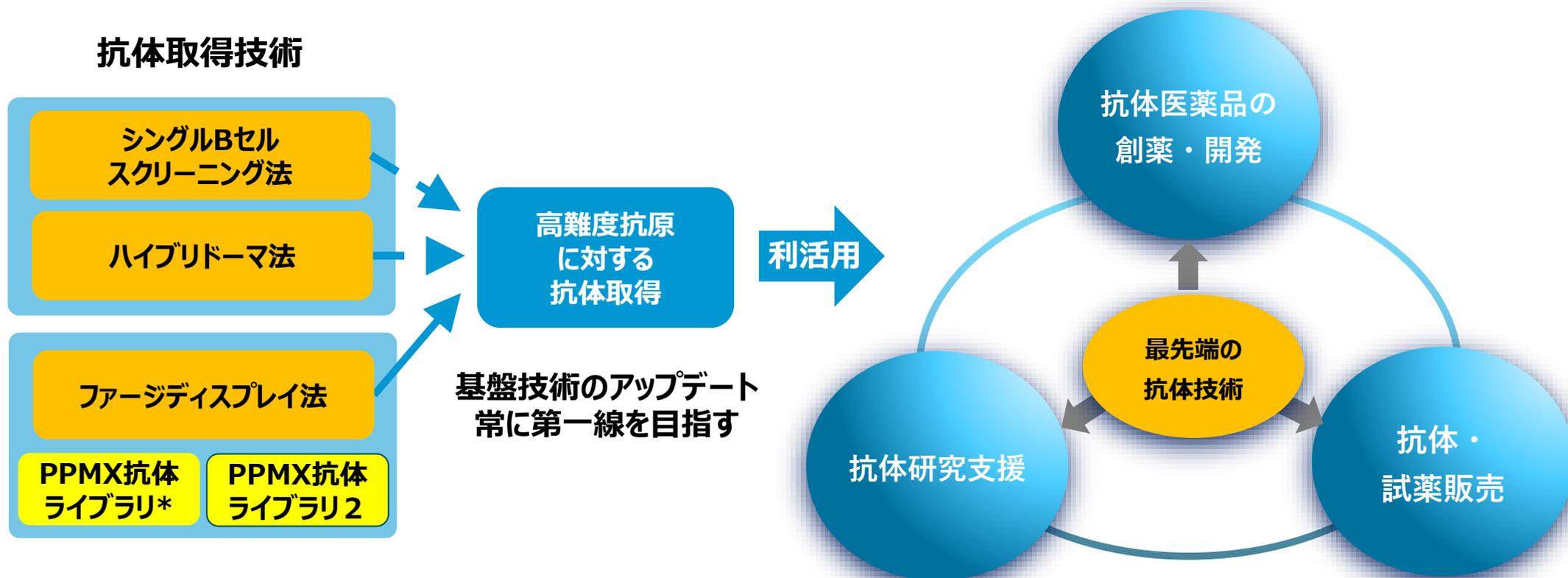
- 注) 1. この表は当社想定によるもので、記載どおりに進行することを保証するものではありません。
- 注) 2. 導出後のすべての開発は、導出先企業の開発戦略によって決定されます。
- 注) 3. ANKL医師主導治験の結果次第でAMLやリンパ腫に関する治験計画及び導出時期等も変動することが予想されます。現時点での治験や導出の時期に関して記載が困難であるため、当該記述は削除しております。

(2) 2027年3月期までの成長計画



* TOKYO戦略的イノベーション促進事業採択

当社の「コア・コンピタンス」= 最先端の抗体取得技術により、 各事業を多面的に支援・強化



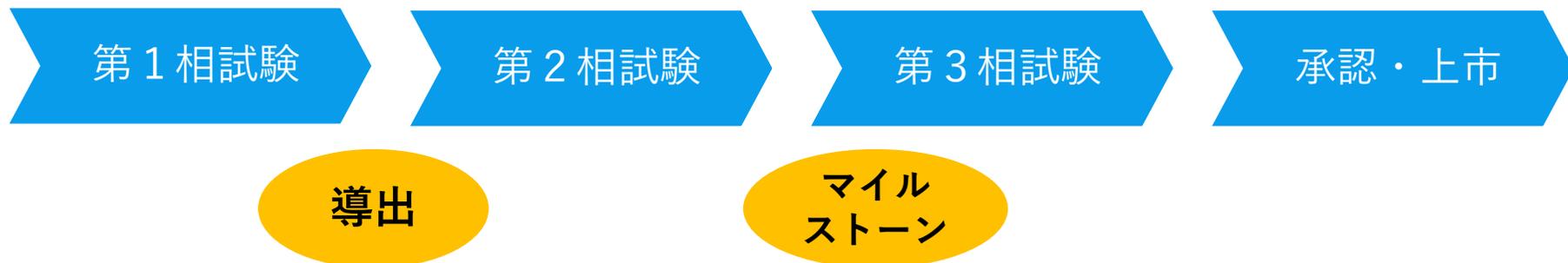
* : これまでPPMXが利活用してきた複数のライブラリの総称

(4) 経営指標

当社における導出時の契約一時金とその後の継続的なマイルストーン等の収入は、当社又は導出先における研究開発の進捗に大きく左右されます。

そのため、当社では、ROA(総資産利益率)やROE(自己資本利益率)といった数値的な目標となる経営指標ではなく、将来の売上に繋がる**パイプラインの開発の進捗**、**パイプラインの拡充**及び**売上高**を重要な経営指標として、事業活動を推進しております。

【パイプラインの開発の進捗】



パイプラインの開発の進捗については、「ビジネスモデル パイプラインの状況」をご参照ください。

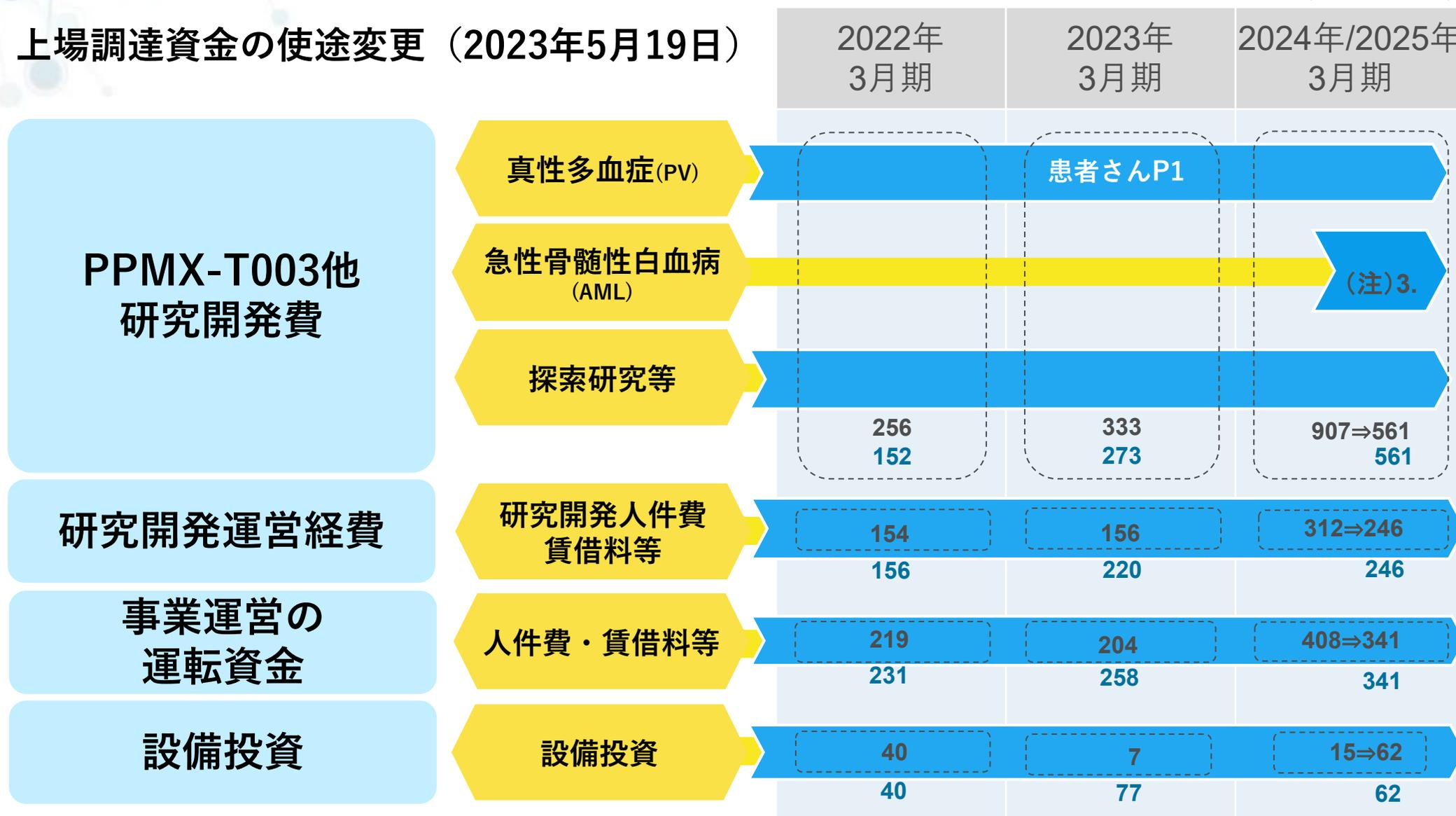
(5) 資金調達に関する説明①

上段： 当初想定額⇒変更後想定額
下段： 充当額



(単位：百万円)

上場調達資金の用途変更 (2023年5月19日)



- (注) 1. 想定調達額には、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分（最大396百万円）を含んでおりましたが、実際の調達額は2,622百万円であり、不足分は自己資金で充当いたします。なお、2023年5月19日開催の取締役会で用途の変更等を決議しました。
2. 上場調達資金は2025年3月期をもって、記載のとおり全額充当いたしました。
3. AMLに関する治験計画はANKL医師主導治験の結果次第で変動することが予想され、現時点で治験実施時期の記載が困難であるため、P1/2の記述を削除しております。

(5) 資金調達に関する説明②

第28回新株予約権の概要

第28回新株予約権	
割当日	2024年3月7日
割当先	バークレイズ・バンク
潜在株式数	2,900,000株（2023年12月31日時点の発行済株式総数に対し24.51%）
発行価額	総額1,566,000円（新株予約権1個あたり54円）
調達額（手取）	約9.5億円
行使期間	2024年3月8日～7月1日（完了）
当初行使価額	536円
行使価額の修正	行使請求の効力発生日の直前取引日東証終値の93.5%に相当する金額に修正
下限行使価額	268円（発行決議日直前取引日（2月19日）の東証終値の50%に相当する金額）

(5) 資金調達に関する説明③

第28回新株予約権による調達資金の充当状況

資金使途	支出予定時期/予定額	充当額
	2024年4月~2026年3月	2025年3月期
1 研究開発資金	628百万円	327百万円
<ul style="list-style-type: none"> ● PPMX-T003：PV患者さん第I相試験費用 	69百万円	69百万円
<ul style="list-style-type: none"> ● PPMX-T002：治験薬保管費用及び品質保証のための検査費用等 	20百万円	20百万円
<ul style="list-style-type: none"> ● PPMX-T004：GLP対応およびGMP治験薬製造準備 	150百万円	31百万円
<ul style="list-style-type: none"> ● 新規パイプラインの開発、当社独自の抗体技術の研鑽、研究員の人件費等 	389百万円	207百万円
2 運転資金	320百万円	320百万円

(6) 2025年3月期実績

● 損益計算書

(単位：百万円)

	2023年度 実績	2024年度 実績	
売上高	100	120	抗体研究支援 抗体・試薬販売
売上総利益	87	104	
販売管理費	982	930	
研究開発費	616	594	PPMX-T003 ANKL治験 PPMX-T003 PV治験
その他	366	335	
営業利益	△894	△826	
経常利益	△879	△829	
特別損失	223	72	設備投資の減損損失
法人税	1	2	
純利益	△1,104	△904	

- 売上高 : 前年同期比約20%増(抗体・試薬販売、抗体研究支援ともに増加)
- 研究開発費: PPMX-T003のANKL第I/II相医師主導試験費用、PV患者さん第I相試験費用等
PPMX-T004は抗体と薬物/リンカーの組み合わせの最適化に遅れ

リスク情報

認識する主要なリスク 1/2

リスク項目	概要	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
医薬品の研究開発、医薬品業界 新薬開発の不確実性	医薬品開発の成功確率が低いこと、研究開発期間が長期間を要すること等により、投資回収額が回収できない可能性	中	中長期	大	当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。
医薬品の研究開発、医薬品業界 競合	競合他社の有する医薬品候補物質の研究開発が、当社のもと同じ疾患領域で先行した場合、当社優位性が低下する可能性	大	中長期	大	潜在的競合品に対しては、学会情報等から把握し当社品の位置づけを明確にします。
医薬品の研究開発、医薬品業界 外部委託先との連携	自然災害及び重大な感染症の流行等により、原薬の安定供給や適時なサービス業務を受けられない可能性	中	不明	中	地域の異なる複数の委託先を選択できるようにし、リスク低減を図ってまいります。
事業遂行 特許	優れた技術が出現した場合、当社の特許技術が陳腐化する可能性	中	中長期	中	新たな技術、次期パイプライン候補の研究開発に取り組み、新しい特許の獲得に取り組んでおります。 物質特許に加えて、薬剤の機能や治療用途と組み合わせた特許等の出願補強で当社特許を強化します。
	他社の特許・発明により、当社の特許が無効化する可能性	中	中長期	大	
	他国において申請した特許が取得・登録されない可能性 当該技術が利用される可能性	中	中長期	中	
事業遂行 災害、感染症等の発生に関する不確実性	研究所の一時閉鎖等の不測の事態が発生した場合や、重大な感染症の流行等が発生した場合、研究開発が遅延する可能性	中	不明	中	災害発生や感染症等が流行した場合の事業継続計画(BCP)を定めており、これに基づいて行動し、リスク低減を図ってまいります。
事業遂行 地政学リスク	治験薬の保管や製造等を依頼する国での政情不安等により、治験薬の供給が途切れる可能性	小～中	不明	中	外部環境の変化をキャッチアップし対処する体制を構築致します。

認識する主要なリスク 2/2

リスク項目	概要	顕在化の可能性	顕在化の時期	顕在化した場合の影響度	リスク対応策
パイプライン	放射性医薬品開発会社の導出先を得られない可能性	中	中長期	大	複数の候補企業と交渉し、最適な導出先を選択してまいります。核種変更前に効果の改善を十分に検証し、開発を進めてまいります。
PPMX-T002	放射性同位体変更後、開発が遅延または中止となる可能性	中	中長期	大	
パイプライン	開発が遅延または中止となる可能性 製薬会社等の導出先を得られない可能性	中	中長期	大	現在は自社開発を行っており、広い疾患領域で適用可能性を検討し、開発遅延や中止のリスクを低減します。また、当社の技術を駆使して、次期パイプライン候補の研究開発に取り組んでおります。複数の候補企業と交渉し、最適な導出先を選択してまいります。 上記対応策を実施するとともに、必要に応じて資金調達を実施いたします。
PPMX-T003	開発の遅延及び追加試験による追加費用が必要となり、資金調達が必要となる可能性	中	中長期	大	
パイプライン	製薬会社等の導出先を得られない可能性	中	中長期	大	複数の候補企業と交渉し、最適な導出先を選択してまいります。最適な薬剤との組み合わせを検討し、より効果の高い次期パイプラインとして開発を推進します。
PPMX-T004	T004のリンカーとペイロードの最適な組合せが見つからず、開発が遅延または中止となる可能性	中	中長期	大	

※ 有価証券届出書の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。

※ その他のリスクは、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

サステナビリティ

サステナビリティ

サステナビリティ方針



当社は、企業理念「最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する」の下、独自の抗体技術を駆使して、新しい抗体医薬品の開発を目指しています。中核事業である創薬事業を積極的に展開することで、有用で安全な抗体医薬品を開発・提供し、持続的成長による企業価値の向上と事業活動を通じた持続的な社会の実現に取り組みます。国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業と連携し、革新的な医薬品の創造に努めます。

サステナビリティ

E:環境



- 廃棄物処理の徹底
廃棄物について、法令に則り適切に処理しています。
- 環境負荷の低減
エリアごとの照明のオン・オフの徹底や、サーキュレータの活用などで、省エネに努めています。研究用資材(プラスチック)については、SDGsに取り組む企業の製品を積極的に購入しています。製品発送に関しては、まとめて発送できるものは極力まとめ、輸送回数・梱包資材の使用量低減に努めています。梱包資材についても、製品に直接触れない外側の緩衝材等を再利用し、お取引先の利便性と製品の品質が保たれる範囲で行っています。

サステナビリティ

S:社会



- 従業員の多様性と働き甲斐(エンゲージメント)
年齢・国籍・人種・性別を問わず優秀な方を採用しています。2024年度には外国籍の社員2名を採用しました。
- 社員の男女比率は男性47%、女性53%です。(2025年3月31日時点)
- 健康・安全な職場環境
安全総点検を年に1度実施して、健康で安全な職場環境の維持に努めているほか、安全衛生委員会、防災安全委員会、実験室安全委員会等の各委員会による定期的な社員教育や職場環境の継続的な整備を行っています。
また、2025年3月期の有休取得率は73.5%と、厚生労働省の2024年調査結果の65.3%を十分上回っており、休暇を取りやすい職場環境だと考えております。
- 柔軟な働き方
コアタイムのないフレックスタイム制や、在宅勤務制度を活用し、一人一人がワークライフバランスの最適化を図っています。

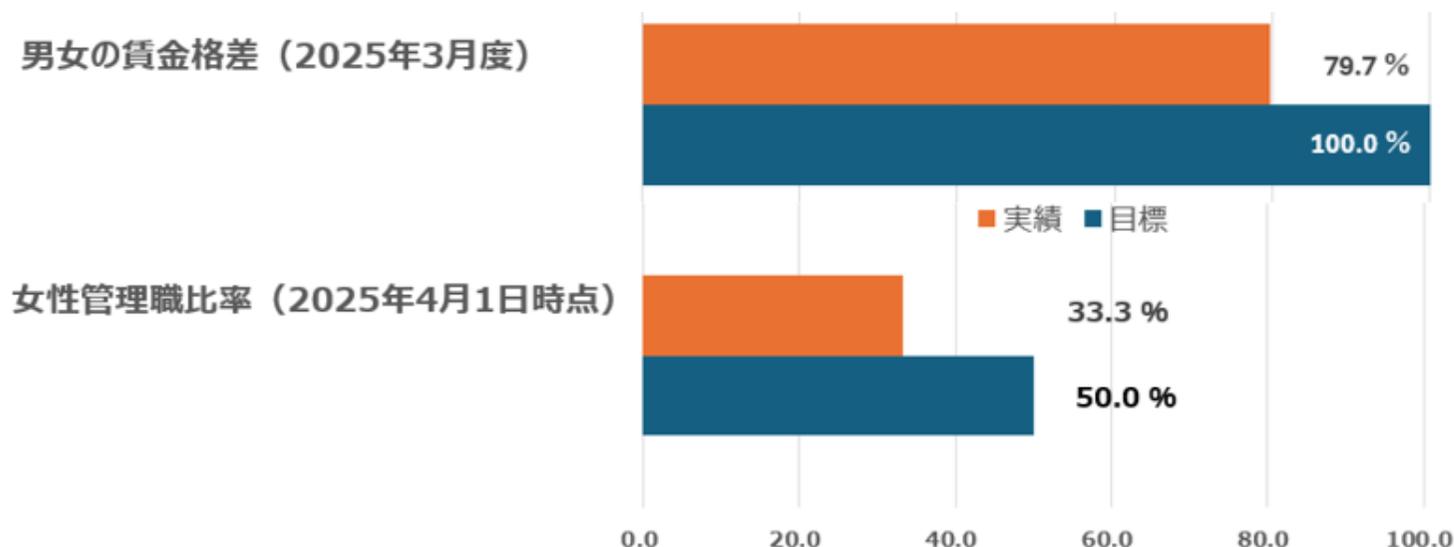
サステナビリティ

S:社会



- 女性活躍推進

女性管理職比率、男女の賃金格差は以下のとおりです。今後の目標達成に向けて継続的に取り組んでまいります。



- 次世代教育

2024年に医療系を進路として考えている高校生の会社訪問を受けました。今後もこうした高校生や中学生の会社訪問を受け入れ、直接的に医療に関わる以外にも様々な選択肢があることを、学生の皆さんに知っていただければと考えています。

サステナビリティ

G:ガバナンス



基本的な考え方

当社は世界の医療に貢献していくというミッションの下、株主をはじめとしたステークホルダー（従業員、取引先、罹患者、債権者、地域社会等）の皆様の利益を重視した経営を行うことが当社の使命であると考えております。そのためには、当社事業が安定的かつ持続的な発展を果たすことが不可欠であり、このような発展の基盤となる経営の健全性及び透明性の向上を目的とするコーポレート・ガバナンスの強化は重要な経営課題であると認識し、積極的に取り組んでおります。

- 当社のガバナンス体制

当社は監査等委員会設置会社であり、取締役の活動状況を監査しやすい体制となっております。また、社外取締役を委員長とする任意の報酬委員会も設置し、取締役の報酬について協議し、適正な報酬となるよう取締役会に提言を行っています。

社長を委員長とするサステナビリティ委員会では、当社の重要リスクの分析を含む幅広いサステナビリティ関連事項を討議します。これを元に安全衛生委員会や情報セキュリティ委員会などの各委員会が立案・実行した対策を評価し、必要に応じて対策を求めることで当社の持続的な成長を推進しております。

- コンプライアンス

各種情報管理規程の周知徹底や定期的な研修等により、役員・社員一人一人がコンプライアンスを遵守した上で事業を推進しております。

Perseus Proteomics Inc.

Email : ir@ppmx.com
TEL 03-6264-8224